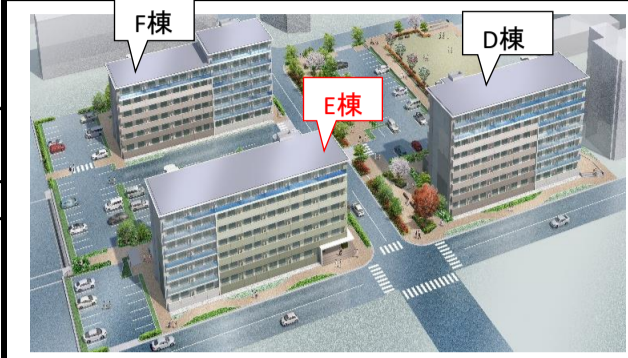


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営上和田住宅 E棟(仮称)	階数	地上7階
建設地	愛知県岡崎市上和田町字荒野1番2、5番2、69番1、70番の一部	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	108人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年8月 予定	評価の実施日	2022年7月1日
敷地面積	3,527 m ²	作成者	(株)市川三千男建築設計事務所 設計監理部 長田瑞基
建築面積	616 m ²	確認日	2022年7月1日
延床面積	2,947 m ²	確認者	(株)市川三千男建築設計事務所 設計監理部 長田瑞基



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

- ①参照値: 184 (kg-CO₂/年・m²)
- ②建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)
- ③上記+②以外の: 138 (kg-CO₂/年・m²)
- ④上記+: 46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.9)

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 2.8)

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 4.1)

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 4.0)

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.2)

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.5)

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
5.0	3.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.1	1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) **19.9%**

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

〈外装材に使用した地域性のある材料〉
なし

〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性				0.2	3.1	0.29	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	-	3.0	3.0	0.50	
1 階高のゆとり				-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.1	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				排水立管の集約、点検口の設置	3.0	4.0	0.17			
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11			
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11			
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22			
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			独自③		3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	色調を統一し、調和のとれた街並み	5.0	0.40		-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	広場を確保し、地域のにぎわいに貢献	5.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-				3.6
LR1 エネルギー						0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.8	3.0	4.0	0.33		-	4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.85	3.0	5.0	0.33		-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17		-	3.0
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング					3.0	3.0	-		-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	-		-	
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング						3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制						3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	3.2
1 水資源保護					0.1	3.6	0.15		-	3.6
1.1 節水					3.0	3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	4.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			有		3.0	4.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0				-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.3	0.63		-	3.3
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	高炉セメント(基礎部分)		5.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	再生砕石(あいくる材)	3.0	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤									-	
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	1.00		-	
3 冷媒					3.0				-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率44%		5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮					0.3	2.6	0.33		-	2.6
2.1 大気汚染防止						1.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自	敷地への駐車場乗入れ位置を同じ道路に面して設けない計画		5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自			3.0	1.00		-	
2 振動			独自						-	
3 悪臭									-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制						3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						3.0			-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:19.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 県営上和田住宅 E棟(仮称)

計画上の配慮事項	
総合	既存住棟(4階建)の建替え事業である本計画は、中層化(8階建)することで敷地内平面駐車場、児童遊園を広く確保し、地域のコミュニティを促進します。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・室内化学物質調査では規定値をクリアされている。 ・F☆☆☆☆以上を全面的に使用し、室内化学物質調査をしている。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・建築基準法上の耐震性をクリアしている。 ・住宅性能表示基準劣化対策等級3をクリアしている
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内緑地を条例基準以上確保している。 ・地域を考慮した外観デザインを採用している。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅性能表示基準断熱等性能等級4をクリアしている。 ・南側バルコニーとしている。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・大便器を節水型ロータンクとしている。 ・基礎部分に高炉セメントを使用している。 ・有害物質を含まない材料を使用している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・分別可能な特定ゴミ置き場を設置している。 ・適切な量の自転車置場、駐車スペースを設けている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。